

令和6年度 学校教育目標と経営の方針及び努力点

北杜市立明野小学校

I 学校教育目標

「かしこく やさしく たくましく」

－原っぱ教育の推進と充実－

1 目指す子どもの姿

(1) よく考え工夫する子ども

- ◇自ら自己調整し学習を進める子ども
- ◇学習習慣を身に付けた子ども
- ◇学習規律を身に付けた子ども

(2) 明るく仲良く助け合う子ども

- ◇心をこめた挨拶や返事ができる子ども
- ◇相手の気持ちを考えた話し方ができる子ども
- ◇自他を大切にできる子ども

(3) 心身を鍛えねばり強くがんばる子ども

- ◇生活習慣・礼儀が身に付いた子ども
- ◇すすんで運動する子ども
- ◇苦手なことにもチャレンジする子ども

(4) 地域から学び明野の地を誇りに思う子ども

- ◇地域から学ぶ子ども
- ◇地域の人とかかわる子ども
- ◇地域に貢献できる子ども

2 目指す学校の姿

- (1) よりよい自分を創る学校
- (2) 一人ひとりを大切にする学校
- (3) 保護者・地域に信頼される学校
- (4) 安全で内外に開かれた地域とともにある学校

- ◇学習指導要領の趣旨や内容に基づく教育課程の編成（PDCA サイクルの実施）
- ◇生徒指導の充実といじめ、不登校の根絶
- ◇あたたかな雰囲気の学級経営の実践
- ◇個別最適な学びと協働的な学びの授業の創造
- ◇主体的な判断力と行動力を培う防災教育
- ◇保育園、中学校との相互交流の実施

3 目指す教職員の姿

- (1) 子どものよさを伸ばす教職員
- (2) 児童が自己有用感や自己肯定感を持つことができるよう、一人ひとりの可能性を生かす教職員
- (3) 互いに学び合い、専門性を高め合う教職員
- (4) 家庭・地域・社会から信頼される教職員

- ◇よりよい人間関係の土台となる集団づくり
- ◇一人一実践を中心とした子ども主体の授業への指導法改善
- ◇今日的教育課題に向き合う研修の実施
- ◇子どもとの遊びや会話を通した児童理解
- ◇子どもに範を示すあいさつ、清掃
- ◇ブロックごとの教職員連携からチームへ

4 目指すコミュニティスクール（CS）の姿

- (1) 地域とともにある学校
- (2) 地域と学校が共通の目標に向かって連携・協力・協働する
- (3) 地域と学校が役割を分担しながら一体となって特色ある学校づくりに取り組む

- ◇小中合同学校運営協議会の開催
- ◇学校運営協議会コーディネーターを窓口とした連携
- ◇目指す子ども像の共有と役割の自覚
- ◇学校評価の実施と公表
- ◇積極的な情報発信と共有
- ◇保護者・地域と連携した環境整備
- ◇地域行事への積極的な参加促進

II 学校経営の基本方針 「学級経営の充実を図る」

- (1) 教師と児童及び児童相互のよりよい人間関係を育てる土台となる集団づくりに取り組む。
- (2) 「生きる力」を育む教育課程を編成し、知・徳・体バランスのとれた育成に努める。
- (3) 主体的、対話的で深い学びを目指した学習指導と授業改善に努める。
- (4) 基本的生活習慣を確立し、自ら運動に親しむ態度を育成する。
- (5) 特別な支援を必要とする児童の理解と個に応じた指導の充実に努める。
- (6) 危険回避能力を育てる安全教育の推進と安全管理体制の充実に努める。
- (7) 個々の力量とチーム力を高め、家庭や地域と連携しながら、信頼される学校を実現する。

III 学校経営の具体的な方針

- (1) 教師と児童及び児童相互のよりよい人間関係を育てる土台となる集団づくりに取り組む。
 - ◇児童が自己有用感や自己肯定感を持つことができるように、集団としての意見をまとめたり、個人として問題解決に向けた目標や方法・内容等を決定したりする活動に取り組み、一人一人の良さや可能性を生かすように努める。
 - ◇児童理解や心の居場所づくりに努め、いじめや不登校のない楽しい学校生活を実現する。
 - ◇「聴いて 考えて つなげる」道徳の授業を実践し、道徳性の育成に努める。
 - ◇朝読書や教科と関連づけた読書指導により、豊かな感性を育む。
 - ◇学校生活アンケート、QUテスト等の調査、児童とのふれあいを通して、児童理解に努める。
 - ◇規範意識を醸成し、生命を尊重する心の育成に努める。
- (2) 「生きる力」を育む教育課程を編成し、知・徳・体バランスのとれた育成に努める。
 - ◇学習指導要領の趣旨や内容に基づいた適切な教育課程を編成し、PDCA サイクルで取り組む。学校評価の結果を踏まえ、指導計画の改善と充実に努める。
 - ◇児童に身につけさせたい資質・能力を明らかにし、言語活動の充実と情報活用能力の育成を進め、主体的に聴いて 考えて つなげる授業を積み重ね、学び合いのスパイラルを上げていく。
 - ◇情報 I C T 教育、環境、福祉など今日的な教育課題を教育活動に適切に位置づけ推進する。
 - ◇社会の一員としての生き方をみつめる体系的なキャリア教育を推進する。※キャリアパスポート
 - ◇保幼小中の連携の推進及びスタートカリキュラムの実施・評価・改善や小中合同研究会等の実施に取り組む。

◇教師と児童の信頼関係のもと学級経営を充実させ、望ましい集団づくりを行い、自己有用感や自己肯定感を高める。※生きる力を育むためのベースは、学級経営・学級づくり。

(3) 主体的、対話的で深い学びを目指した学習指導と授業改善に努める。

◇校内研究の充実により組織的・計画的に授業改善に取り組み、学校の教育力の向上を図る。

◇体験的な学習や問題解決的な学習により、学ぶ楽しさを実感できる学習指導に努める。

◇「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を図り、学習者（児童）主体の授業改善を推進する。

◇個に応じた指導に努め、基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着を図る。

◇言語能力、情報活用能力（情報モラルを含む）等の学習の基盤となる資質能力を育成するため、教科横断的な視点から教育課程の編成を図る。

◇研修会の実施や授業の相互公開を通して、情報活用能力（プログラミング教育・ICT教育・情報モラル教育）、外国語教育の推進を図る。

◇外国語教育の5領域（聞く・読む・話すやり取り・話す・書く）の充実とコミュニケーション能力の育成を目指す。

◇一人ひとりの可能性を伸ばし、自己有用感をもたせる指導と評価に努める。

◇家庭学習の工夫と家庭との連携により、学習習慣の確立に努める。

(4) 基本的な生活習慣を確立し、自ら運動に親しむ態度を育成する。

◇外遊びの日を設定し、運動の日常化を図る。

◇年間を通して「早寝 早起き 朝ご飯」のスローガンを掲げ、基本的な生活習慣の確立に努める。

◇一校一実践運動に取り組み、運動の楽しさを味わい、進んで運動に親しむ態度を育てる。

◇体育の時間に5分間、持久力を高める運動を意図的に取り入れる。

◇家庭や栄養教諭と連携しながら、食に関する指導を計画的に位置づけ、その充実を図る。

(5) 特別な支援を必要とする児童の理解と個に応じた指導の充実を努める。

◇各家庭や関係機関との情報交換を密にし、障害についての理解と適切な支援の充実を努める。

◇校内委員会を開催して児童の情報を共有し、同じ方針で指導するよう組織的対応に努める。

◇個別の支援計画、指導計画の更新とこれに基づく系統的な指導を心がける。

◇SSWやSCなど関係諸機関と連携した指導を行い、必要に応じてケース会議を設ける。

◇インクルーシブ教育、ユニバーサルデザインの理念を踏まえた指導を心がける。

◇特別支援教育の専門性の向上を図り、教育内容や教育環境の充実を努める。

(6) 危険回避能力を育てる安全教育の推進と安全管理体制の充実を努める。

◇月一回の安全点検の実施と課題への速やかな対応により、安全で快適な環境づくりに努める。

◇主体的な判断力や行動力を育てるよう、抜き打ち避難訓練の実施と工夫、改善に努める。

◇危機管理マニュアル・避難所開設マニュアルの確認と改善を継続的に行う。

◇複数の担当者で献立を確認することにより、食物アレルギーによる事故の発生を予防する。

◇職員、PTAによる通学路点検を計画的に行い、危険箇所の把握と関係機関への報告に努める。

- ◇保護者に対し、登校の見守りや除雪作業への協力を求め、安全確保を図る。
- ◇安全教育に係る取組を評価・検証し、学校安全計画及び危機管理マニュアルの改善を行う。

(7) 個々の力量とチーム力を高め、家庭・地域と連携しながら、信頼される学校を実現する。

- ◇校内研究を中心に、研究・研修に努め、専門職としての資質向上を図る。
- ◇学級経営上の理論と手法をあらためて学び、生徒指導や学級経営に生かす。
- ◇職員全員が主体的に学校運営に関わることにより、組織としての力を高める。
- ◇報告・連絡・相談・確認を徹底し、情報と方針を共有して指導に当たる。
- ◇情報セキュリティポリシーに基づき、個人情報の徹底した管理に努める。
- ◇学校だより等により、学校・地域・家庭が目指す子ども像を共有し、役割の自覚と連携を深める。
- ◇学校運営協議会コーディネーターを窓口として地域・保護者・学校の連携をすすめる。
- ◇学校だよりやホームページの充実を図り、一層の情報公開に努める。
- ◇地域の祭りや一斉清掃などへの参加を促し、地域に対する愛着と誇りを育てる。

IV 指導上の努力点

1 凡事徹底

あたりまえのことを大事に、一つひとつ丁寧にやっていきます。

2 危機管理

最悪を想定し、慎重かつ速やかに、誠意を持って、組織で対応します。

3 当事者意識

報告、連絡、相談により、課題を共有し全員が当事者意識をもって対応します。

4 言動の裏側にあるもの

言動ばかりでなく、その裏側にある判断や気持ちに関心を持って指導します。

5 範となれる存在に

清掃・言葉づかい・時間など、子どもにとって手本となる存在を目指します。

6 子どもと一緒に活動を

一緒に清掃をし、一緒に歌い、一緒に遊ぶよう努めます。